

# ジオラマ展示から人々の生活を読み解く—ダムに沈んだ田子倉集落—

東京学館高等学校 鍋田 英一

## 1. 実施学年および教科・領域

高等学校第1学年 「歴史さんぽ同好会」の研究活動

## 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名 ジオラマ展示から人々の生活を読み解く—ダムに沈んだ田子倉集落—

(2) ねらい

平成22年発行の高等学校指導要領解説は、日本史Bで、「博物館や資料館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して知識・理解の一層を図り」、「歴史の学習を抽象的な概念の操作で終わらせずに一層の具体性をもって実体化していくこと」が大切であると述べている。事実、教室での教科書中心の授業では、歴史のアウトラインをつかむことはできても、それを具体的なものとして理解し、さらに知識の裾野を広げていくことは困難である。何より、「歴史を知る喜び」を体感させることが難しいことは、残念なことである。その解決策の一つとして博物館の利用がある。印刷物では分からない具体的な歴史資料に接することによって、生徒の歴史に対する興味・関心が高まり、より深い知識を体得することができる。そのためにも、博物館に実際に訪問することによって体感できる資料の活用が望まれる。その活用方法として、今回は、ワークシートの実践をおこなった。この活動をとおして生徒たちが展示資料を読み解き、歴史への興味・関心を高め、さらに深い歴史学習をめざすことを「ねらい」とした。

(3) 博物館との関連

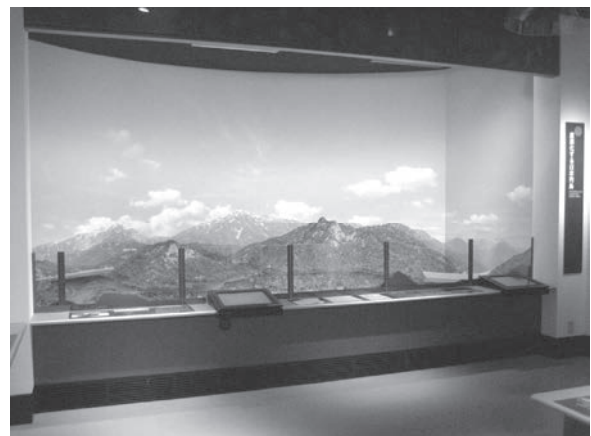
第6展示室（現代）「田子倉集落再現模型」

取り上げる田子倉集落再現模型は、「Ⅱ戦後の生活革命 1. 高度経済成長と生活の変貌 ①産業化する日本列島」のコーナーにある。解説には「戦後復興のための緊急課題のひとつが、豊富な水資源の活用による電力増強であった……福島県の只見川水系の田子倉ダム

(1959年運転開始)などの巨大な水力発電ダムの建設が進み、京浜・中京など大都市圏への電力供給がはかられた」、そして田子倉の「村びとは長く住み慣れた村からの移転を迫られ、集落は水底に沈んだ」とある。このジオラマは、水没前の田子倉集落を再現したものである。

ところで、この模型は大変精巧に作られており、ダム建設による水没地域の地形や集落などの様子を立体的に知ることができる。これは平面的な写真や映像などでは不可能なことで、実際に博物館を訪れ調査・見学してこそ理解できる格好の資料の一つである。

今回は、さらに付属しているタッチパネルの解説を活用することによって、「ダムによる



田子倉集落再現模型

村の水没」という抽象的な表現を、より具体性をもって理解し、水没した集落に住んだ人びとの生活を浮き彫りにすることを試みた。

### 3. 実践の概要と事後指導

#### (1) 事前学習

- ①日時：2011年6月15日 10:00～13:20
- ②場所：歴博 第5展示室（近代）・第6展示室（現代）
- ③目的：生徒の興味をもった展示資料を調べ、ワークシート作成の参考とする。
- ④内容：まず、「現代」の前史としての「近代」から入り、教員が概略を説明した。その際、歴博の特徴として実物大再現模型が展示の中心に配置され効果的に使われていることにも触れた。次の第6展示室では、教員が解説を加えながら比較的詳しく全体を見学した。その後、各自で興味を持った展示を自由見学させる。最後に休憩スペースで、見学の感想を聞く。その後、興味をもった展示とその理由を書くアンケート用紙を配布し、翌日学校で回収した。
- ⑤結果：生徒4人全員が「真空地帯」のビデオに興味をもち、3人が三八式歩兵銃と田子倉集落再現模型をあげた。ダムに水没した田子倉集落の再現模型は、大変精巧にできており、神社には鳥居があり分教場には校庭もある。私が「学校はどこにあるか、わかる？」と質問すると、生徒は熱心に模型の中を探し始め、見つかると喜んでいった。さらに、タッチパネルの中にある写真の住居も探し始めた。時間が無いので途中で切り上げたが、ある生徒のアンケートの回答には、「高度経済成長で大きく日本人のあり方が変わった中で、人々の得たものの分、失ったものが何なのかわかりました。この模型の中に自分で家を探すというのは、模型の隅々まで自然と見ることができて良いものだと思う」と書かれていた。もちろん、この展示の趣旨は「家探し」が目的ではない。この模型をあげた他の2人の生徒の感想は「家探しが楽しかった」で終わっており、田子倉の人びとの生活まで考えが及んでいない。その理由は、タッチパネルの解説を十分に見る余裕がなかったからである。ならば、生徒の楽しむ家探しをきっかけに、田子倉集落への関心を高めさせ、そこに住む人々の生活をより深く理解するよう、導くこともできるのではないかと考えた。こうして、田子倉集落再現模型をワークシートのテーマとすることを決めた。

#### (2) 実践の概要

- ①日時：2012年1月9日 10:10～11:30
- ②場所：第6展示室（現代）
- ③目的：ワークシート「田子倉の集落を調べてみよう」の実践
- ④内容：入館後、第6展示室に向かい、集落模型の前でワークシートの作業に入る。約45分でワークシートの記入が完成し、中庭のテラス席に場所を移してワークシートを回収し、すぐ話合いの時間をもった。
- ⑤ワークシートとその結果：  
当日、実践したワークシートの設問と設問の意図、生徒の答え(A)を載せる。

ワークシート「田子倉の生活を調べてみよう」（\*本稿の最後に再提案を掲載）

第6展示室には、ダムに沈んだ田子倉集落のジオラマ（模型）があります。この模型を見ながら、かつての田子倉の人々の生活を考えてみましょう。

→まず、右にあるタッチパネルで「只見川の電源開発と田子倉ダムの建設」を見て下さい。

Q 1. このダムは、いつ、何の目的で作られたのでしょうか？

意図：いつ、何の目的で電力が必要になったのかを考えさせる。

A. 全員「1954年」の誤答。後日、指摘を受けたが、これはタッチパネルの映像での建設の着工時期であって、ダム本体の運転開始は1959年である。誤解を招く質問だった。映像だけでなく「電源開発とダム建設」解説文から、答えさせるよう変更したい。目的については「水力を利用した発電のため」と答えている。電力が地元福島県のためではなく「首都圏の工業生産のため」という答えは無かったが、最後の質問で出ている。

Q 2. なぜ、この場所（福島県南会津地方）が選ばれたのでしょうか？

意図：水力ダムの立地条件を考えさせる。

A. 「積雪量が多く、融水が水力資源となるから」と、全員が答える。展示解説では、さらに「岩盤が固く土砂がダムに堆積しにくい」理由も書かれている。

Q 3. 田子倉の人々はダム建設に賛成したのでしょうか？

意図：大規模開発に賛成・反対はつきものだが、その理由を考えさせる。

A. これは、質問の仕方がまずかった。映像の中に反対運動も紹介されていて、3人が「反対した」と書いただけで終わっている。別の角度からの質問に変えた方が良い。一方で、あまり反対運動に立ち入ると、印象が強すぎて、他の問いに影響が出そうである。

Q 4. 次にジオラマの前にあるタッチパネルで「田子倉アルバム」の「田子倉の家々」を見て、ジオラマの中からA「若宮八幡神社」、B「分教場（小学校）」、C「皆川文弥家」を探してみましょう。ヒントは神社や分教場は高い所にあります。そして、神社には鳥居、分教場には校庭があります。皆川文弥家の屋根には囲炉裏の煙りぬきが2つあります。建物を見つけたら、下の写真にA B Cの印をつけてみましょう。

意図：建物を探すという作業の中で村の景観を意識させる。険しい山が迫っている、田が少ない、畑が斜面に作られている、川の近くに建物がないなど、あとに出る村人の生活をイメージしやすくする。

A. このワークシートの中で、生徒が一番楽しく作業していた。このジオラマ模型は、細部までかなり細かく作られて



ジオラマの中に若宮神社を探す

おり、タッチパネル中の建物の写真から、その建物を探し出すことが可能である。つ

まり、ジオラマとタッチパネルの解説写真が見事に一体化する仕掛けが隠されている。ここでは比較的見つけやすい3つの建物を選んだ。皆川家は3軒並んでいるが、軒の形、煙抜き（箱屋根）の場所と数から文弥家を特定できる。ただ、生徒は互いに話し合いながら探すので、結果的には全員同じ答えになった。

**Q 5. 文弥さんの家の子が、冬の道を歩いて分教場まで通うと、どの道を通して、何分かったと思いますか？**

意図：この質問に正解は無い。そもそも、文弥さんの家の子どもの年齢も性別も書いていない。各自が自由に想像するだけである。後日、「答えの出ない間はいかがなものか」という批判も出たが、雪の無いジオラマから、雪の村をイメージしてもらうのがねらいである。

A. 生徒の答えは5分から45分まで出た。その後の話合いでは、「最短距離を走れば5分」という意見に対し、「学校前の坂はきつい」、「雪道を走るのは危険」、「雪なら近くて狭い道より遠くても広い道の方が安全」との反論が出た。さらに、「当時はスノトレでなくて長靴」、「もしかしたら長靴も無くてワラ靴かも」と履物の話題も出る。そして、最後には私も予想していなかった「吹雪の時もあるかも知れない。安全のため集団登校していたんじゃないか」という意見に落ち着いた。正解が出なくても、彼らの頭の中には、冬の田子倉の子どもたちの登校風景が浮かんだことと思う。展示物自体は無機質なもののだが、ジオラマは想像力を刺激する。生徒も、「自分が小さくなってその中にいるような感覚になる」と言っていた。

**Q 6. この地方では、屋根が上からみると逆L字型の家が多いですが、なぜでしょうか？**

意図：タッチパネルの間取り図から、母屋に「馬屋」が付いていることを見つけさせる。

A. 「馬を飼っているから」の答えを期待したが、間取り図を読み取れず正解は出なかった。「冬用の玄関を遠くにするため」（実はこれも正解）、「屋根に日が当たりやすいようにするため」などの答えとなる。後で聞いたところ「曲り屋」を知っている者は1人しかいなかった（正確は「馬屋中門造」<sup>1</sup>だが）。

**Q 7. 「皆川庵家」の家の間取り図を見ると、玄関が夏用と冬用の2つありますが、どうして2つ必要なのだと思いますか？**

意図：雪国の住居の特徴から防寒対策を考えさせる。

A. 正解は、「雪や冷気が直接、居住空間に入らないようにする。雪で土間がぬかるむのを防ぐため、馬小屋の方に冬用玄関を設けている」だが、「夏用玄関から冬は風も入ってくるのでドアが開かなくなる」、「夏は風を通しやすいように」などの答えもあった。

Q 6とQ 7は同じ間取りについての質問なので、まとめて1つにする方が良いかもしれない。

**Q 8. 「子どもの遊び」を見て、夏・冬で印象に残ったものを一つずつあげてください。また、それぞれの遊びは村のどこでおこなわれたか想像してみて、その場所を下の写真の中に○で囲んでみましょう。**

意図：これも正解はない。生徒の関心の高い「遊び」を例に、子どもたちの生活と村の自然をイメージさせる。

A. 夏は「川で泳ぐ」2人、「川で遊ぶ」1人だった。冬は「凍った田んぼでスケート」が3人、「山・川」が1人。興味を持つかと思った「ウサギとり」が無かったのは残念。

**Q 9. タッチパネルの「田子倉の四季」を見て、下の「生業暦」を完成してみましょう。**

意図：これは、タッチパネルの表（円形）をシートの表（横長）に写させる作業である。生業暦は仕事カレンダーと表現しても良いかもしれない。これを写させることによって、1年を通して村の生活が自然と結びついていることを気づかせるねらいである。また、事後学習で村の生活を考える時にも役に立つ。なお、年中行事で生徒たちが一番興味を持ったのが11月23日に行われる「飯豊講」（若衆に腹いっぱいトロロ飯や餅を食べさせる）で、あとで、「これが村の収穫祭で、勤労感謝の日につながっている」と解説を加えた。

**Q 10. 以上の質問の答えを書きながら、あなたは田子倉ダム建設について何を感じましたか？ 感じたことを自由に書いて下さい。**

意図：まとめの部分である。このコーナーのテーマである「大都市圏への電力供給のためダムが建設され、田子倉の自給自足的な生活が失われ、農村が都市の犠牲になっていく」ことを、どれだけ理解したかがわかる解答を期待した。

A. 「田子倉ダム建設にあたって、多くの理由や目的があり、多くの人が苦勞していることがわかりました。もともとそこに住んでいる人たちは、今までと違った生活をしていかなくてもなりません。きっと不安をかかえる人がたくさんいたと思います。それに対して都会に住んでいる人たちは、電力を必要としてダム建設を待ち望んでいます。」

「昨年原発の様子を見てても、危険だってわかっているのに慣れ親しんだ土地から離れたくないと言ってる人がたくさんいました。お金もらったから移動できるとかそんな簡単なことではないのだと思います。」

「住んでいた家にも愛着があるし、ダムつくるから引っ越してと言われたら私は嫌です。」

「田子倉に住んでいた人たちはどこへ移住したのか。そして開発者たちは住民たちにどんな保障をしたのか。電気が欲しいなら、東京のド真ん中に原発を作ればいい。」

設問に「ダム建設」とあるので、その解答が多くなってしまい、肝心の田子倉の人びとの生活についての感想が出てこなかった。そこで次のワークシート案では「ダム建設」と「人びとの生活」の両方を設問に入れてみたが、問いが2つになった分、かえって焦点がぼけてしまった。結局、最終案では「人びとの生活」だけを問うことにした。ここでは、「感想」を自由に書かせ、それを踏まえて事後学習でまとめさせる方が良さそうである。

### （3）事後指導

#### ① 1月9日（当日）：

ワークシート記入後、すぐに中庭のテラスで話し合いをもった。事前学習では、宿題として後日学校で提出させたが、今回のようにすぐ回収して話した方が記憶も確かだし、疑問点もその場で解決できて良かったと思う。また解決できない疑問点を整理して、後日図書館などで調べるよう指示する。生徒の人数が多くては無理だが、このやり方は他の博学連携研究員の実践から学んだ。

## ② 1月11日：

放課後1時間ほど、歴史さんぽ同好会を本校図書室で開く。内容は、ワークシートの復習で、まず「曲り屋」と「夏冬2つの玄関」については解説を加えた。次にワークシートのQ9の「生業暦」が正しく書けているかの確認と内容の説明をおこなった。また最後のQ10「田子倉ダム建設に何を感じたか」については、当日時間がなくて書き足らなかったことも含めて話し合う。その中から、反対運動・自然保護の観点から八ッ場ダム建設中止問題、首都圏の電力のために地方が犠牲になるという点から福島原発問題が浮かんできて、反対運動をもっと調べたいと考える生徒が1人いた。一方で、ダム問題も重要だが田子倉の歴史や村の生活をもっと調べたいという意見も出た。また、ある生徒は「小さな村なのに、なぜ旅館が2軒もあるのか」にこだわっていた。これについて、他の生徒からは「豪雪地帯だからスキー客が来る」（すぐ却下された）、生業暦を見ながら、「町から山菜などを買いに商人が来て泊まる」、「狩人が各地から集って来る」などの意見が出たが疑問が残る。話し合いの後、図書室の本で田子倉を調べて、次回、報告することが決まる。

## ③ 1月19日：

放課後、図書室に集合し調査結果を話し合う。本校図書室には、残念ながら福島県の歴史<sup>2</sup>に関する本は少なかったが、角川書店と平凡社の地名事典<sup>3</sup>から次の3点が判明した。

- 1) 田子倉は奥只見にあるが、越後に抜ける「六十里越え」の道があり、荷の駄賃稼ぎの収入もあり、江戸時代には木戸があり番屋も置かれていた。
- 2) 鉱山が多く銅や鉛が産出されていた。
- 3) 熊狩りのシシヤマという狩猟組織が第2次世界大戦まで残っていた。

これらを見ると農地は少なく米を外から買う状況ではあったが、自然に恵まれた豊かな村であったようだ。生徒の報告には時代的にあいまいな部分もあるが、「旅館が2軒あるのは『六十里越え』の旅人のためではないか」、という新しい視点からの意見も出た（正解はまだ不明だが）。一方、ダム反対運動に関する本や資料は見つからず、インターネット<sup>4</sup>で調べて次回報告したいという生徒がいた。

## ④ 1月23日：

放課後、生徒を集める。歴博職員の小林光代氏より貴重な論文のコピーを送って頂いたからである。当時書かれた田子倉ダム反対運動の記録<sup>5</sup>である。詳細は省くが、政治家や有力者の買収工作や反対派に対する妨害・いやがらせなど、大変衝撃的な内容であった。特に田子倉の歴史については大変詳しく書かれており勉強になった。そして、村内の新旧住民の微妙な関係がダム建設をめぐる、さらに複雑化していく過程が明らかにされていた。早速、生徒を集め簡単な説明をおこなったが、テーマの重さに声が出なかったのが現状である。その後も歴史さんぽ同好会の生徒たちは、田子倉について反対運動・衣食住・産業など、それぞれのテーマを考えて調べている。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

「田子倉集落再現模型からダムに沈んだ村の人びとの生活を読み解く」というテーマに、

生徒たちをどれだけ近づけさせることができたか、まだまだ十分とは言えない現状である。しかし、ワークシートの家を探すという作業をきっかけに、ダム問題や田子倉の人びとの生活に興味を持ち、みずから調査をするようになったのも事実である。生徒の書いたワークシートの内容には不十分な点も多かったが、事後学習の内容を見ても、それなりの成果は引き出せたかと思う。あらためて、事後学習の大切さも痛感している。当たり前のことだが、事後のフォローがあつてこそ、生徒はさらに学習意欲をもって課題に向かう。

## (2) 課題

### ①テーマ選び：

今回は、「歴史さんぽ同好会」という有志サークルを意識したワークシートを作成した。興味・関心を優先したので「歴史」より「民俗」に近い内容もあつて、教科の日本史では使いにくい箇所もある。今後は、校外学習を意識したテーマ設定が必要である。第6展示室のワークシートはまだ少ないが、種類が増えれば組み合わせによる実践など活用方法が広がるだろう。

### ②設問：

初めて作成したワークシートは惨憺たるものであつた。その後、田子倉の写真や生業暦の表を入れるなどして体裁だけは整えたが、設問に関しては多くの批判を受けた。特に正解の無い設問や、その場で答えられない設問である。個人的には「答えが出なくても、考えること自体が大切」と思っているのだが、多くの人の前では独りよがり過ぎなかつたと反省している。

### ③再挑戦：

ある生徒の感想に、「中学校の時は、解説も見ないでどんどん行ってしまう。先生も説明してくれない。もう行きたくないと思っていた。今回はじっくり見たので面白かつた。また行ってみたい」というものがあつた。まさに「知るは楽しみなり」である。今回のワークシートでは失敗したが、もう一度、トライしてみたい。

## 5. ワークシート案

### (1) 対象：高校生

ただし、タッチパネルを使った作業があるので、一度に多くの生徒の活動はできない。人数が多い場合は、事前に5～6人程度の班を作っておく必要がある。いくつかのテーマの中から選択させるか、時間差で複数のワークシートの実践も考えられる。

### (2) 主題：高度経済成長期の問題点—田子倉集落再現模型を使って—

### (3) ねらい：

歴史教育に「博物館の調査・見学などを取り入れることで、実物や複製品などの資料と接して知識・理解の一層を図る」(高等学校学習指導要領解説より)。特に立体的なジオラマ模型は、平面的な写真や絵画に比べて具体的なイメージを描きやすい利点があり、歴史の考察を深めることができる。

### (4) 博物館との関連：

①事前学習：田子倉ダム建設は、日本史の単元では「経済復興から高度成長へ」に入る。

日程的に難点もあるが、授業進度と歴博見学が一致することが望ましい。また、総合学習の時間や選択科目での活用も考えられる。田子倉ダムについては教科書に記述は無い。教員は事前に参考文献などにあたって概略を知っておく必要はあるが、生徒は教科書程度の知識で良いと思う。むしろ、先入観を持たないで博物館の資料に接する方が新鮮味もあり感動も生まれる。また、教員が予想もしなかった発想に驚かされることもある。

②博物館との関連：ジオラマ模型という性格上、博物館で見るとしかない。資料を見るために単眼鏡を借りても良い。また、人数や時間にもよるが、ワークシートを館内で回収し、その場で疑問点など話し合う方法も考えられる。疑問点をその場で確認できる利点がある。ただし、設問の解答は事後学習にまわす。場所については館内のガイダンスルームなどの利用もできる。

③事後学習：ワークシートは事後学習があつて完成する。ワークシートの結果は個人より、班などのグループで話し合せて発表した方が生徒も集中する。主題の「高度経済成長の問題点」として、田子倉のケースでは「ダム開発」と「人びとの生活」のどちらに重点を置くか難しいところであるが、生徒の興味を尊重した方が良いだろう。また、発表の中で教員が予想もしなかった新たな疑問点が出てくる場合も多い。調査のために、再度歴博の見学を勧めたり、図書館の利用などをアドバイスしたりする必要がある。

## 参考文献

- 1 広岡祐 『たてもの野外博物館探見』 JTB 2000

「曲り屋」は突出し部分のすべてが馬屋なのに対し、突出し部分に中門口ちゅうもんぐちという出入口と通路が設けられているものを「中門造」という。

- 2 小林清治・山田舜 『福島県の歴史』 山川出版 1970

やや古いが、只見電源開発と開発計画図の記載がある。

- 3 角川日本地名大辞典編纂委員会 『角川日本地名大辞典』7. 福島県 1981 角川書店

平凡社地方資料センター編 『日本歴史地名大系』第7巻 福島県の地名 1993 平凡社  
いずれも「田子倉」の項を参照。

- 4 Wikipedia 田子倉ダム

インターネットの記載には不正確なものもあり注意を要するが、この項目についてはよくまとめられている。「田子倉ダム補償事件」も載っている。ちなみに、歴博のジオラマについても次のように書かれている。「高度経済成長の時期に重化学工業重視へと産業構造が変化し、それに伴う電力需要に対応する電力供給が必要とされる一方、人口都市への流出により農村の過疎化と都市の過密化が進み、農山漁村の自給自足的な生活が急速に失われ、農村が都市の犠牲になったことの象徴としての展示である。」

- 5 民科田子倉ダム建設問題総合調査団 「電源開発反対闘争史 福島県只見村田子倉の場合」 『歴史評論』1955年3月号 河出書房

「闘争史」という言葉が時代的背景を感じさせる。執筆は、民主主義科学者協会早大班である。反対運動のみならず、聴き取り調査による田子倉の歴史も興味深い。23ページにもわたる論文である。



(5) ワークシート再提案

たごくら  
「田子倉の生活を調べてみよう」

第6展示室には、ダムに沈んだ田子倉集落のジオラマ（田子倉再現模型）があります。この模型を見ながら、かつての田子倉の人々の生活を考えてみましょう。

→まず、右のタッチパネルで「<sup>ただみがわ</sup>只見川の電源開発と田子倉ダムの建設」の映像を見てから、手前の解説文を読んで下さい。

Q1. ダムの完成はいつですか？ このダムで作られた電気を使うのはどの地域ですか？

\_\_\_\_\_年

Q2. なぜ、この場所（福島県南<sup>あいづ</sup>会津地方）が選ばれたのでしょうか？

Q3. 関東に住むあなたはダム建設に賛成・反対どちらでしょう？ 理由も書いて下さい。

Q4. 次にジオラマの前にあるタッチパネルで「田子倉アルバム」の「田子倉の家々」を見て、ジオラマの中からA「<sup>わかみや</sup>若宮八幡神社」(P.5)、B「分教場（小学校）」(P.8)、C「<sup>みながわ</sup>皆川文弥家」(P.10)を探してみましょう。ヒントは神社や分教場は高い所。そして、神社には<sup>とりい</sup>鳥居、分教場には校庭があります。皆川文弥家の屋根には<sup>いろり</sup>囲炉裏の煙りぬきが2つあります（すぐ目の前の3軒の家に注目）。建物を見つけたら、下の写真に、←ABCの印をつけてみましょう。



Q5. もし、皆川文弥さんの家の子が、冬の雪道を歩いて分教場まで通うと、どの道を通って、何分かかったと思いますか？

約 \_\_\_\_\_ 分

Q6. この地方では、屋根が上からみると逆 L 字型の家が多いですが、右側の出っ張った部分には何があるのでしょうか？「皆川庵家」(P.13) の家の間取り図を見て考えて下さい。

Q7. 「田子倉の四季」の「子どもの遊び」(P.16～)を見て、夏・冬で印象に残ったものを一つずつあげて下さい。また、それぞれの遊びは村のどこでおこなわれたか想像してみ、その場所を左下の写真の中に○で囲んでみましょう。

夏：

冬：

Q8. タッチパネルの「田子倉アルバム」の「田子倉の四季」を見て、下の「生業暦」(仕事カレンダー)を完成させましょう。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
行事												
農業												
動物												

Q9. 上の表を見て、田子倉村の特産品は何だと思いますか？(いくつでも良い)

Q10. 田子倉の人々の生活について何を感じましたか？ 感じたことを自由に書いて下さい。(→裏まで書いてもかまいません)

\_\_\_\_\_ 年 組 ( )